



海に囲まれた西海市大島町。写真中央は「大島造船所」



Saikai City

西海市

五島灘、佐世保湾、大村湾に囲まれた西彼杵半島北部と点在する島から形成される長崎県西海市。本稿では、今秋で20回目を迎えるグルメイベント「さいかい井フェア」、移住者が集う大瀬戸の雪浦地区で開催される「雪浦ウィーク」、西海のニューリーダーたち、市民グループの活動等、西海市の“今”をレポートします。

寄稿：西海市



丼フェア

10/7 土
～
11/25 土



魚

西海市全体で取り組む グルメフェア

平成17年に西彼、西海、大島、崎戸、大瀬戸の5つの町が合併し、西海市が誕生しました。しかし、市全体で取り組むイベントがなかったため、「市で一丸となって何かできないだろうか」ということで生まれたのが「さいかい丼フェア」です。西海市は豊かな自然に囲まれており、新鮮な魚や肉、野菜などの山海の幸に恵まれています。この「食」の魅力を生かしたイベントを考えたところ、豊富な食材をいろいろな調理法で楽しめる「丼」にたどり着きました。合併の翌年の平成18年からスタート。今秋で20回目を迎えます。

さいかい丼の定義は、

① 形を問わず、深さのある一つの容器に
“丼”として盛り付けされたもの

② 西海市内で生産される農水産物を使用すること

③ 肉類については、極力市内産で県内産も使用できる

というもので、魚あり、肉あり、店舗ごとに趣向を凝らしたオリジナル丼が毎回登場します。

秋のさいかい



肉

西海市内の14店で開催 「さいかい井フェア」

記念すべき第20弾は、14の店舗が参加。西海市大島町にあるラグジュアリーホテル「オリブベイホテル」や今年6月にオープンしたばかりの食処など、3店舗が新たに仲間入りしました。小鉢や汁物などを含め2,500円以内に設定された通常版井14種と各店舗贅沢な食材をふんだんにのせた豪華版井7種の計21種の井が楽しめます。マイ箸を持参すると、各店舗オリジナルの特典が受けられる「マイ箸特典」も引き続き実施。さらに今回はさいかい井参加店舗のスタンプを2つと道の駅さいかいみかんどームでの購入時スタンプ、計3つのスタンプを押すと応募できるスタンプラリーを開催します。抽選で参加店舗の食事券などが当たります。

歴史を重ね、さらに磨き上げられてきている「さいかい井フェア」。ぜひ多彩な井を食べくらべ、見どころやお土産なども楽しみながら、この秋西海市をめぐってみてはいかがでしょうか。

“さいかい井をきっかけに西海市を好きになってもらいたいですね”

これまで会長を務めていただいていた方が、体調不良などをきっかけに会長職を退きたいということ、私に声がかかりました。前会長には第19弾まで長年引つ張ってきていただいたので、ここで世代交代をするのもいいのではないかと思います。ちょうど20回目という節目を迎えるタイミングでもありましたので、私

Q「さいかい井協議会」の会長に就任したきっかけは？

「さいかい井フェア」は西海市、西海市観光協会、西海市商工会、参加店舗から選ばれる会長と役員とで「さいかい井協議会」を作り、運営されています。第20弾を迎える今回、新会長に「鮪政」の岩永亮太さんが就任しました。岩永さんに「さいかい井フェア」への想いを聞きました。

これからもっともっと盛り上げていきたいので、参加店舗を増やしていきたいですね。若い人にも参加してもらいたい。まずは目標20店舗です！また、参加店舗の料理やホスピタリティの底上げ、スキルアップをしていきたいと思っています。斬新な料理を提供しているところや同じようなグルメフェアをやっているところに参加店のみんなで視察に行つて勉強したいとも思っています。さいかい井をきっかけに西海市を好きになってもらい、また遊びにきてもらえたら嬉しいですね。

Q「さいかい井フェア」を今後どんなイベントにしていきたいですか？

たちの世代が引き継ぎ、若い力でさらに「さいかい井フェア」を盛り上げていきたいと思ひ、会長を引き受けました。



1. 第20弾から会長を務める「鮪政」の岩永亮太さん
2. 職人技が生み出す繊細な盛り付けが好評
3. 今回のフェアで提供される「鮪政」の豪華版井

さいかい井フェア参加店MAP



ホームページリニューアル /

【URL】 <http://saikaidon.com/>



第20弾さいかい井フェア

10月7日(土)～11月25日(土)
14の店舗で多彩な井が味わえます！

【お問い合わせ】

西海市情報観光課 TEL.0959-37-0064

西海市商工会 TEL.0959-37-5400

NPO法人西海市観光協会 TEL.0959-37-5833

ふるさと西海応援寄附金

西海市情報観光課 TEL 0959-37-0064

ふるさとチョイス 西海市

検索

ふるさと寄附制度は、西海市を応援したいと想う方から広く寄附を募り、これを財源として各事業を実施して、ふるさとの活性化に繋げるものです。その感謝を伝える御礼品として、あふれる自然とたっぷりの愛情で育てた自慢の品をお届けします。



西海市のおいしいみかん 9月15日(金)～受付開始

西海市のみかんは甘さと酸味のバランスが良く、コクがあるのが特長です。その理由は、1年を通して気候が温暖なことで日照時間が長いこと、それに糖度を上げるのに適した水はけのよい土壌に恵まれているからです。また、大村湾や角力灘に面した傾斜地にあることから、ミネラル豊富な潮風と海面に反射する陽の光をたっぷり浴びておいしさを倍加させます。種類の多さも大きな

魅力で西海市では、高級ブランドみかん「原のみかん」をはじめ、生産者が努力して味も個性も様々な数十種のみかんを栽培。出荷時期も10月から翌年の6月までと、長期間に渡りますので、その時期ならではのおいしいみかんをお召し上がりいただけます。



西海市産 季節の野菜詰合せ

通年受付

西海市の農家が丹精込めて栽培した野菜を、直売所がさらに厳選した新鮮な野菜セットです。



うず潮カキ

11月1日(水)～受付開始

海水塩分濃度が低い大村湾で育つカキは、バランスの良いサイズで甘みの強いカキです。



伊佐ノ浦公園コテージ 宿泊券

通年受付

森に包まれた自然公園の中にある、湖に面したコテージで楽しいひと時をお過ごしください。

移住者が集う場所・雪浦地区

ゆきのうら

雪浦ウイークの人々

海、山、川に囲まれた大瀬戸町雪浦。長崎県西海市にあるこの小さなまちは、移住者が多く、長崎の移住の最先端地区として注目を集めています。

毎年5月に開催されているイベント「雪浦ウイーク」では、雪浦をこよなく愛し、ここに暮らし、ここで活動する人々が出展しています。自宅や工房を開放することにより、訪れる側、迎える側、双方が共に楽しめる、顔の見える交流を続けて19年を迎えました。町おこしのお手本ともいえる「雪浦ウイーク」を支える個性豊かな人々に迫ります。

本当の幸せ、豊かさとは？

青年海外協力隊として途上国の開発に関わった頃を話す渡辺督郎さん。「本当の幸せ、豊かさとは何だろう」と思い悩んだと語る。

30歳の時、故郷・雪浦へと舞台を移す。平成になった頃から、豊かな自然に魅せられて、1、Uターン者が少しずつ移住してきていた。地元にも面白い仲間たちがいた。みんなを巻き込んで、都会にはない雪浦での暮らしを外に発信できないか。ひとつの答えが導かれた。田舎暮らしを紹介し、顔の見える交流をする催し「雪浦ウイーク」

の発案発起だ。

取り組み続け19年が過ぎた。社会が変化し、失われていくものが増える程に、雪浦ウイークは逆説的に浮かび上がり注目を浴びてきた。「雪浦ウイークを1週間から365日の活動へ」と語った当初の夢も現実となり、いよいよ動き出す。それが、「雪浦あんばんねプロジェクト」だ。豊かな田舎暮らし、地域おこしの夢は限らない。若き日の問いが原動力となり、今日も自身を動かし続ける。



雪浦ウイーク発起人
渡辺 督郎さん



自然豊かな雪浦地区



雪浦ウィークの人々④



よしむら げんいちろう
吉村 源太郎さん

「定年後に思い切り農業が出来る場所を」と辿り着いたのが雪浦だった。雪浦川の上流に「源さん農園」を構え、農業を楽しむ。

雪浦ウィークの人々③



タナカタケシさん

雪浦在住の画家。雪浦ウィークの案内マップを第1回目から手がけている。素朴なタッチと色彩で雪浦のイメージを築き上げている。

雪浦ウィークの人々②



かわすゑ しげゆき
川添 成行さん

創業約130年の「川添酢造」4代目。南米音楽に魅了され、雪浦ウィークの期間中、まちのあちこちでフォルクローレの音色を奏でる。

雪浦ウィークの人々⑦



くわだ けんいちろう
桑迫 賢太郎さん

長崎大学環境科学部の一期生として、卒業後雪浦に住み始めた。自然農を実践しながら、現在は画家としても活動する。

雪浦ウィークの人々⑥



おにつか さなえ
鬼塚 早苗さん

多国籍民芸品とオーガニック焼き菓子の店「自然と暮らすぐりーん」の店主。父親の故郷である雪浦に移住し子育てをする。

雪浦ウィークの人々⑤



はまさき たかお
濱崎 隆生さん

「リサイクルテクノ工房」の主。タイヤホイールの鉢、紙管の照明など、ただのリサイクルではなく、独自の技術が加わる作品が魅力。

雪浦ウィークの人々⑨



やまだ ちあき
山田 千晶さん

「NPO法人雪浦あんばんね」の事務局を務め、雪浦コミュニティで中心的な役割を果たす。ブログ「雪浦だより」で雪浦の素晴らしさを全国に発信中。

雪浦ウィークの人々⑧



はやし よしゆき
林 吉行さん

雪浦の郷土史家で「雪浦歴史通りMAP」の制作に関わる。まち歩きガイド、民泊体験の受入れなど、その好奇心は尽きない。



雪浦のいろんな話題・情報はこちらから
<http://yukinoura.net>



西海市を全国へ！そして海外へ！

～若手経営者のチャレンジ～

西海市商工会では、平成28年度に策定した経営発達支援計画に基づき、市内の小規模事業者の方々が新たな販路を開拓し、持続的経営に繋がるような経営支援活動を実施しております。今後はさらに、西海市の地域資源を活かして地域の貢献につながる特産品の開発・販路拡大を積極的に支援してまいります。

今回は、地方創生により西海市のPRに注力されている宮里シティーマネージャーにファシリテーターをお願いし、市内の若手経営者の方々に今後の展望を伺いました。



株式会社 大地のいち
代表取締役 生田 智昭 (39才)



協力産業有限会社 伊達本舗
代表取締役 伊達 光一 (48才)



西海市
シティーマネージャー 宮里 賢史 (28才)

宮里 西海市の農・水産物を加工食品として製造・販売されている若手の経営者お二人にお話をお伺いしていきます。まずは、伊達本舗さんから、会社の概要を教えてください。

伊達 うちが明治43年に個人事業の伊達商店としてスタートし、ちゃんぽんやアイスクリームを地元の方に販売していましたが、その後、昭和17年に法人化して、フェリーなどの海運業にも展開しましたが、平成11年に大島大橋が開通したのを契機に、海運業から撤退し、創業から継続していた食品製造部門に力を入れて現在に至っています。

宮里 メインの商品は何でしょうか？

伊達 水産加工品からお菓子類まで幅広くそろえていますが、引き合いが多いのは「かんころ餅」ですね。

宮里 販路はどのようなところですか？

伊達 元々は地元向けでしたが、全国の百貨店の物産展に出店したり、商談会で取引を増やしたりして、今の取引先は関東が多いです。県内ではハウスステンボス、高速道路のSA、空港、駅などに置いてもらっています。

宮里 ありがとうございます。では次に、大地のいちさんお願いします。

生田 うちのいちさんは、耕作放棄地の活用を目標

に立ち上げた農業法人です。「大地のいち」という社名には「人は皆、大地で育んだ命をいただいて生きており、私たちの仕事は、その大地の命を育てることだ」という想いが込められています。

宮里 農業法人ということですが、メインの商品は生鮮野菜ですか？

生田 そうですね。自社での栽培の他に、地元の生産者の方、佐賀・熊本・鹿児島が生産者の方々とキャベツや玉ねぎ、みかんなどの野菜や果物を契約栽培して全国に出荷しています。青果卸の他にも、農産物を加工した商品も販売しています。

宮里 販路はどのようなところでしょうか？

生田 現在は、全国の生協やスーパーへの卸売りが6割くらい、加工食品のメーカーさんなど業務向けが4割くらいです。これからは、西海市崎戸町に加工場を建設し、加工品にも力を入れていきます。

宮里 大地のいちさんの商品に「カラマンダリンジュース」ってありますが？

生田 西海市産のカラマンダリンという柑橘系の果物100%ジュースです。カラマンダリンは自社生産の他、地元生産者の方にも作ってもらっていて、土作りや肥料のやり方、こういう風に育てると味が良くなるという研究を一緒にやっています。

宮里 「ときめきサイダー」という商品も



大地のいのち「ときめきサイダー」



大地のいのち「カラマンダリンジュース」



伊達本舗「甘古呂餅」

ありますが、これも素材はカラマンダリンですね。同じ素材だけ違うのですか？

生田 カラマンダリンを15%入れてつくったサイダーです。炭酸を入れて少し味を調整して爽やかに飲めるように仕上げています。

宮里 伊達本舗さんの「かんころ餅」は色々な種類がありますね。

伊達 さつまいも風味のプレーン、紫いも、よもぎ風味の3種類です。このバリエーションで「甘古呂餅」という漢字表示がうちの特徴ですね。

宮里 かんころ餅は、長崎の名物ですね？

伊達 元は保存食から始まっています。おじいちゃん、おばあちゃんが昔からつくって来ていたさつまいもの「餅菓子」です。

宮里 どちらの商品もパッケージのデザインが丁寧に作られていますね。ギフトで買いたくなります。生産者の方も自分で作った農産物がこういう風に使われたら、嬉しいですね。

伊達 そうですね！自分が作ったサツマイモがどういう風に加工作れるのかハッキリわかれば生産者もやる気がでるし、消費者には生産者のぬくもりを感じてもらいたいです。近年は、消費者も産地に敏感になっていますからね。

生田 「安心」「安全」「健康」がキー

ワードですね。

宮里 今年の3月、西海市で実施したモニターツアーのアンケートでわかったことですが、参加者は旅行で来てるから、お金を落とす気がまんまんなのに、買いたいお土産品が少ないという意見でした。

伊達 西海市は良い素材がたくさんあるのに商品化されずに埋もれていますからね。生産者の方もどんどん高齢化しているから、早めに手を打たないと。私たちも西海市で採れるものを全て把握しているわけではないので、生産者の方々からも良い素材があったら持ちかけてもらいたいですね。

宮里 それでは最後に、今後の展開や抱負をお聞かせ下さい。

伊達 全国の方にかんころ餅を通じて西海市を知ってもらいたいです。それから、西海市は海に囲まれて魚が捕れるのに、水産加工品が少ないんです。魚はあるけど、加工所がないから出荷できないんですよ。うちは県内の直売所との取引も広げていますから、西海市の水産物も売り込んでいきたいです。あとは、海外ですね。単独で海外に展開するのはハードルが高いので、商社さんと連携がとれたらと考えています。

生田 地域の会社や行政、商工会、金融機関などが一緒になって、農・漁業を通じ

て地域を起こしていきたいですね。チームになって取り組めば、都会にはない地域の魅力的な仕事がいっぱい出てくると思います。農業や漁業は、高齢化により、人手不足、後継者不足など、課題が多いですが、私はこれをビジネスチャンスと捉え、干しイモや惣菜などの加工品をつくっていかうと思っています。加工品を一つの軸にしながら、頑張つてチャレンジしていきたいです。

宮里 どうもありがとうございます。



座談会の様子

西海市の市民活動

西海市では、市民グループの活動が盛んです。このコーナーでは市民グループの活動と、市民が主体となって行うイベントを紹介します。

ポートホール花の街づくりチーム

平成28年4月、市民の皆さんや観光客の皆さんも入場無料で自由に入れる市民交流型観光施設「ポートホール長崎」や、市内各種イベント等を花の力で応援しようと結成された市民チームです。

現在会員が約40名、「ポートホール長崎」内に設置したハンギングバスケットおよび花壇等の管理や講習会の開催など花による環境美化運動をボランティアで推進しています。



大島「^{ソイネ}Soy-ne」

あんた達「ここ」やってみんね！

12年前、お手伝いで味噌の仕込みに来ていた「生活改善グループ」のお母さん達から声をかけられた。

この味、この加工場を守らなければ！

そんな思いといっしょにお手伝いしていた。お母さんたちのお嬢さん達と遊び仲間の7名でゆっくりと、加工場を引き継いだ。

昭和の古き道具、何十年も繰り返された仕込みの作業、そして、ここにしかない黒く壁に住みついた「麹」。気の合うメンバーと伝統の味噌を残して「ふるさとの味」を子どもたちへと伝えていく——。

4年前に名前を大島「Soy-ne」と変えて、大豆のパワーと味噌を通じて、食育や地域とのコミュニケーションを広げるグループへと変わった。

若い世代に馴染める様に、みかんと味噌を合わせた「柑ねり」を開発。鍋がなくても、手軽に出来る「みそ玉」を広めたり、お年寄りや病気予防に「減塩味噌」を…と、私達の新たなチャレンジは続いている——。



元気やさい雅

元気やさい雅は、西海市大島にある野菜農園です。廃校になった小学校のグラウンドを環境農園に作り替えました。野菜づくりだけでなくさまざまな環境美化活動も行なっており、県内外からさまざまな賞を受賞しております。



さいかいプレイスマーケット

「さいかいプレイスマーケット」は、のどかで自然豊かな西海市で、“また必ず来たくくなるような(再会したくなるような)場所”を作りたいと願う、西海市内で活動しているハンドメイド仲間が企画をしたイベントです。

西海市内外から、“美味しい”+“こだわり”のフードブースや、子どもたちがのびのび遊べるワークショップブースなどを集めています。



さいかいfood市

「さいかいfood市」は、毎月一度西海市のゆかりのある自慢の一品が集まる市場です。さまざまな西海市の魅力が詰まったものが一堂に集まります。



民泊の会

「農泊」で西海の暮らしを体験してみませんか？



自然豊かな西海市の魅力をより深く、総合的にご紹介できるツールとして、「農林漁業体験民泊（以下：農泊）」が注目を浴びています。

背景に、近年の修学旅行の二大柱である「平和学習」と「体験学習」の一つとして、需要が高いこと。また、アジア地域の旅行にも変化が見られ、日本の里山暮らし体験への関心が高まっており、旅館やホテルの利用ではなく、体験やふれあいを重視したプランを好む傾向がみられます。

西海市の「農泊」では、海釣りやカヤック、特産のミカンやビワの収穫体験など、豊富な体験メニューが用意され、団体に限らず、家族単位でのリピーターが増えています。

また、西海市にはキリスト教関連の重要拠点や様々な逸話が残っており、地元の「ガイドの会」によるガイドを受けながらの散策は、ご年配の方や郷土史研究をされている方々を魅了しています。

西海市の農泊の会「山と海の郷さいかい」では、市の後押しも受け、農泊事業者の拡大に取り組んでいます。地域の人々が生き生きと輝き、都市に暮らす人々が輝きを取り戻して日常に帰っていただく為の仲介役として、活動を続けています。「農泊」は、移住候補地を探す人々にとっても、土地柄、人柄などを体感できる一番の近道です。

全ての旅を最高の思い出に…。「なんばしたかね（何をしたい）？」「よかよ（いいよ）ー」「ここには全てのプランに寄り添える柔軟性（おもてなし）があります。これが農泊における「西海市ブランド」なのです。

■民泊の会ホームページ <http://yamatoumi.com>

西海市長のごあいさつ

西海市長

杉澤 泰彦

平成29年5月1日付けをもって、西海市長に就任した杉澤泰彦です。

西海市の三代目の市長として今後4年間西海市政の執行に当たることになりました。

本市にとりまして、少子高齢化、人口減少、地域経済の低迷など重要な課題が山積しておりますときに、その任に当たりますことは、光栄でありまことに、あらためてその責任の重大さに身の引き締まる思いです。西海市民の幸せを念じ、全力で市政の運営に取り組んでまいりますので、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

では、これから4年間取り組む政策課題のうち、主なものをご説明します。

地場産業育成と地域力の強化

「地元で出来る仕事は地元でやる」ということを基本原則として、市内の中小産業の技術力、競争力を上げ、市内の大

手企業への協力参入ができるような企業の育成を図ります。

教育政策の重点化

西海市を愛する心を育み、将来活躍する人材を育成するため、全国学力テストの平均を上回るよう学力向上に力を入れます。教育は力です。未来への先行投資です。

市民目線の行政と福祉政策

行政運営は云わずとも市民第一であり、課題解決への着手優先順序は、市民目線での生活へのかかわりを基準にします。

とりわけ高齢者が一番困っている買い物、通院のための交通手段確保と、高齢化が進む中に対応できる機能を総合支所に持たせなければならないことが急務と実感しております。



未来につながる 農林水産業・商業観光

市内の一次産業に携わる若者達の意識は高いものがあります。この若者達を支援する長期的展望にたったソフト事業、ハード整備を行うほか、特産品の開発、販売に関する専門部署を市役所内に設置いたします。

子育て支援・女性の社会参画

子育て支援の具体策としては、予防接種の無料化、給食費の補助拡充、保育料の低廉化を図るなど子どもを育てやすい環境の充実を図ってまいります。

まちづくりの大きな力となる女性のさらなる活躍の場を創出し、女性の事業設立のための基金創設を検討してまいります。

定住環境、 高速ネットワーク整備

今のニーズに合った住宅整備も必要ですが、若者の定住を促進する上で高速通信網の整備は避けて通れません。多額の

費用が掛かりますが、計画的に確実に進めることが必要と思っております。

「しま」の暮らし支援

今の離島の状況は、近い将来の西海市や日本の将来的課題の縮図と感じています。この島の厳しい暮らしを軽減することとイコール将来の市全体の課題に対応することと思っております。架橋という悲願、国境離島新法運用に特化する専門部署を置く必要があると考えています。

まちづくりの基本は「ひとづくり」だと思います。10年、20年先を見据えてこのまちを創っていくという市民の皆さんの強い思いが必要です。

まずは皆さんに西海市の市政について関心を持っていただくことから始めたいと思います。市が現在どんなことに取り組んでいるか、それが市民の生活向上にどのように役立ち、市民の皆さんがどのように参画していけるか、それをコーディネートするのが市長の役目だと考えています。

今後4年間よろしく願っています。

西海市 × 親和銀行

西海の力を！～緊密な連携が生む化学反応～

西海市とFFGおよび親和銀行は包括連携協定を締結し、地方創生に関する様々な事業を共同で取り組んでおります。

月一で開催される西海市、商工会、観光協会、FFGによる情報共有会では各チームが進捗中のプロジェクトを共有したり、将来の西海市のあるべき姿をディスカッションして、連携を深めております。

こうした取り組みはさまざまな分野で実を結び始めております。

水産業のあるべき姿をリサーチするため、熊本・天草へ。視察団には漁業組合、市役所、観光協会、商工会、FFGから派遣され、ブルーツーリズムの可能性を探りました。現在西海市内での事業実現に向けて一步一步確実に進捗しております。

また農林業においても、デザイナーと地元生産者をマッチング。パッケージデザインの提案や6次産産品の開発事業など多くのプロジェクトが同時並行で進捗しております。

誰もが好きになる西海市へ。ゆっくと着実に動き始めています。



月一で開催される情報共有会の様子